



「もしも、家族や自分が認知症になったらどうしよう・・・」  
 そんな不安を抱いたことはありませんか？  
 そもそも認知症と老化は違うのでしょうか。  
 まずは、認知症について正しい知識を持つことが大切です。  
 認知症の始まりにいち早く気づけるのは身近にいる「家族」  
 です。少しでも「変だな」「様子がおかしいな」と思った  
 ら早めに医療機関や専門機関に相談しましょう。

## 知ろう！ 学ぼう！ 身近な認知症のこと

— 高齢者の7人に1人が認知症 —

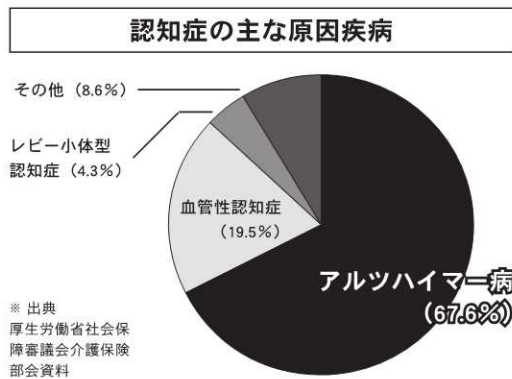
**認知症は何らかの病気によって起こる  
 症状や状態の総称。**  
**老化による「もの忘れ」と「認知症」  
 は違います。**

や日常生活に支障がでてき  
 ます。認知症のうち半数以上がア  
 ルツハイマー型認知症です。

### 認知症ってどんな病気？

認知症は単なるもの忘れでは  
 ありません。脳の老化とともに  
 もの覚えが悪くなったりするも  
 の忘れは、行為の一部や事柄の  
 一部を忘れるのに対して、認知  
 症によるもの忘れは、体験した

**認知症は身近な病気**  
 「認知症」とは、正常であつ  
 た脳の知的な働きが、何らかの  
 病気によって脳の神経細胞が壊  
 れるために起こる症状や状態の  
 ことをいいます。年をとると誰  
 でもなりうる病気で、症状が進  
 むと、だんだんと理解や判  
 断する力がなくなり、社会生活



**若いから大丈夫、と思っていないですか？**  
**そんなことはありません。**  
**若年性認知症の有病率は増加しています。**

ことそのものを忘れ、もの忘れ  
 している自覚がないのが特徴。  
 症状が進行すると忘れる度合い  
 も徐々に増えていきます。

### 社会生活への影響大

年齢が若くても認知症を発  
 症することがあり、65歳未満  
 で発症した場合を「若年性認知  
 症」といいます。人口10万人  
 当たりの若年性認知症患者数の  
 割合は50・9人※で、患者数は  
 3万5700人と推計されてい  
 ます。

初期症状には「人の名前が覚  
 えられない」「もの忘れが激し  
 い」といったものがあり、働き  
 盛りの40～50代の人たちは、初  
 期症状を見逃し早期治療の機  
 会を逃してしまいがちです。若い  
 方が発症した場合は、職を失う  
 おそれがあるなど、家族をも巻  
 き込んで経済的にも精神的にも  
 今後の生活に大きな影響を及ぼ  
 します。気になる場合は、相談  
 窓口相談する他、専門医を受  
 診して検査を受けるようにしま  
 しょう。

※ 出典 独立行政法人東京都健康長寿  
 医療センターホームページ

## — 特集 —

**認知症になってもならなくても、  
 自分らしく幸せに暮らせるまち**

# 与謝野町

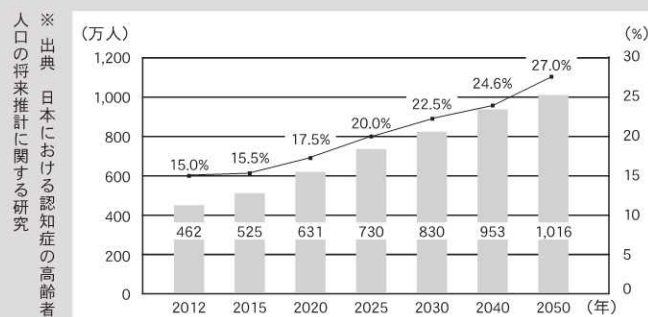
## 9月はアルツハイマー月間 です - テーマカラーは「オレンジ」 -

1994年、国際アルツハイマー病  
 協会は、世界保健機関（WHO）と  
 共同で9月21日を「世界アルツハ  
 イマーデー」と制定し、この日を中心  
 に認知症の啓発をしています。また、  
 毎年9月を「世界アルツハイマー

月間」と定め、全国の市町村では、  
 さまざまな啓発の取り組みが行われ  
 ています。与謝野町でも庁舎や図書  
 館で図書を紹介や、リーフレットを  
 置いて認知症を少しでも身近に知っ  
 ていただけるよう啓発しています。



与謝野町での啓発の様子



**日本の認知症の現状**  
 高齢化とともに、認知症の人  
 数も増加し、65歳以上の高齢  
 者では2012年度の時点で  
 462万人（15・0%）が患っ  
 ているとされています。今後も  
 高齢化が進み認知症の人はさら  
 に増えていくことが予想され、  
 左のグラフのように、2025  
 年には65歳以上の人口の約20%  
 が認知症を有している状況にな  
 ると推定されています。